



豊かな学びへ

～身についた事を生かして学びを深めよう～

校長 村上 裕江

花冷えで思いのほか長い期間桜の花を楽しめた4月から、新緑の輝く5月に季節は移ろうとしています。「平成」で学校だよりをお届けするのもこの5月号が最後です。

入学や進級で、あわただしい4月を送っていた子どもたちには、5月の連休がいい一休みになってほしいです。授業参観・懇談会、個人面談と、保護者の皆様も来校いただく日が多く、ご協力ありがとうございました。4月の新しい出会いを大切に、5月以降も、教職員全員で力を合わせて、教育活動に取り組んで参ります。

さて、4月には、進級した子どもたちの素敵な場面をたくさん目にすることができました。そのいくつかを紹介いたします。

入学式、始業式の次の授業日、4月8日の月曜日は雨の中の登校でした。ランドセル、傘、レインコートとたくさんの荷物を持った1年生が昇降口で困っていると、6年生が次々と1年生の面倒を見て、1年生と一緒に階段を上がって1年の教室まで送っていきました。その姿がとても自然で、安心した様子の1年生の後ろ姿が心に残りました。

掃除が始まって2日目。低学年のクラスでは、小田小学校のスタンダードの掃除のやり方を子どもたちがよくわかっていて、机運び→ほうきを使ってごみを集める→雑巾がけ→終わったところから机を戻す、という流れでスムーズに進んでいきました。毎日の活動がしっかり身についていることに頼もしさを感じました。

朝会の朝。放送委員会の担当の児童が、まだ誰もいない校庭の朝礼台に集まって、マイクの準備を始めました。マイクの音量やスイッチの具合、マイクを渡す先生の確認などお互いに声を掛け合って進めていました。ほかの場面でも、5、6年生が委員会で活動する姿に大いなるやる気を感じました。

1年生を迎える会。1年生の歌に合わせて、聞いている上級生全員から自然と手拍子が起こり、会場にとっても温かい一体感が生まれました。小田小学校の温かさを全校で感じられた瞬間でした。

このように素晴らしいスタートを切っている子どもたちを、さらなる成長に導くために、教職員は授業改善、児童理解、安全研修などを中心に研究、研修に努めます。授業改善では、「主体的・対話的で深い学び」を目指して、東京大学名誉教授・学習院大学文学部教育学科教授 佐藤学先生と東京大学大学院教育学研究科准教授 浅井幸子先生を講師にお招きして子どもたちの学びを深める研究を進めます。授業改善の研究のために、授業の様子をビデオ撮影する場合があります。このビデオは教職員の授業力向上のために、授業改善の研究会だけに用います。予めご了承ください。

令和元年が始まります。平成で学び、身についたことを生かして、新しい時代に、子どもたちがさらに豊かな学びに出会うことができるように、教職員も積極的に学んでまいります。どうぞ、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。